

(様式2)

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

学校番号 22024

令和8年3月19日
札幌市立太平南小学校

1 今年度の重点目標

かがやく笑顔で、元気に学び合う みなみっ子

2 本年度の経営方針

教育目標

創造的な知性を磨く子どもを育成する
 豊かな心情を培う子どもを育成する
 強い意志力を持続する子どもを育成する
 健康な身体に鍛える子どもを育成する
 協調的な社会性を広げる子どもを育成する

児童目標

強い体でやりぬく子
 あたたかい心をひびかせ合う子
 よく考え生活を豊かにする子

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

重点	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学年目標の一体化	①学年目標達成を意識した取組を進め、目指す子どもの姿に近付けていたか。	A	学年目標を日常の授業や生活場面で繰り返し可視化・言語化し、全員が挑戦しやすい雰囲気をつくる。あわせて、「3つのあ」を中心として、挨拶や返事など基本的な行動の質を向上できるよう継続的に指導し、成功体験を共有することで学校全体への定着を図る。	A	A
学校関係者による意見	・子どもの評価が大人より少し高かったことを考えると、子どもは「やっている。」、大人は「もう少し。」という気持ちもあるかもしれません。相互に目指す状態を共有できると互いのできた実感が上がるような気がします。挨拶が大切だというのは地域の一員として私たちも進めていきたいと思いました。				
「知」分かる・できる・楽しいにつながる 授業づくりを目指して	②分かった！できた！楽しい！につながる授業の取組をしていたか。	A	学年・教科で指導のねらいと方法を共有・統一するとともに、AARサイクルを意識した授業づくり引き続き推進する。スモールステップの課題設定と振り返りを徹底し、分かる・できる・楽しい授業を目指す。	A	A
	③安心・集中して学ぶ教室環境と学び方になっていたか。	A	実態に応じた柔軟な学習形態や環境づくりを進めるとともに、授業公開や好事例の共有を工夫し、学校全体で学び方を統一・深化させる。あわせて、主体的に取り組める家庭学習の在り方を整理する。	A	A
	④自ら学びに向かい、友達と学び合うよさを感じさせていたか。	B	交流の目的を明確にした学び合いの場を意図的に設定し、振り返りで学び合いのよさを価値付けるとともに、個に応じた役割設定や支援を行い、自立と協働の両立を図る。	B	A
学校関係者による意見	・改善の方策がとても具体的だなと感じました。自分とは違う相手を認められるか、振り返りによる子どもたちの気づきがたくさんできるようになることを期待しています。				

三 居場所づくりを旨指して	⑤安心感を生む関係づくりの手だてにより、子どもに安心感は生まれたか。	A	日常的な見取りと記録を基に、子どもの悩みやいじめの未然防止、チームで対応するとともに、児童アンケート等で安心感を定期的に検証する。あわせて、ルールや思いやりを具体的に指導し、家庭・関係機関と連携しながら個別支援を継続する。	A	A
	⑥子どもが自己肯定感や自己有用感をもつ手だてができていたか。	A	具体的な行動や成長を言語化して価値付けするとともに、小さな成功体験や役割を意図的に設定し、自己肯定感・自己有用感を継続的に高める。	A	A
学校関係者 評価委員に よる意見	・子どもをトータルに捉え、工夫する方策を立てており頭の下がる思いです。本人の気付かない成長を言語化し価値付けすることはとても大変ですが、日々、先生たちの工夫が保護者の型の子どもののかかわりにも生かしてもらえると良いなと感じました。				
四 「体」心地よい汗を流す 健康な体づくりを旨指して	⑦体育に関する指導が充実し、子どもの運動機会が確保されたか。	A	運動時間を確実に確保できる授業構成を工夫するとともに、次年度も鉄棒・マット・跳び箱週間を計画的に実施し、年間を通して継続的に運動に親しめる環境づくりを進める。安全面を踏まえた用具活用の在り方についても見直し、主体的に運動できる体制を整える。	A	A
	⑧健康、命、こころとからだ、給食の指導は充実したか。	A	養護教諭・栄養教諭・家庭との連携を一層深め、給食や清掃のルールを学年・学校で共通化する。継続的な声掛けと体験的な取組を通して、生活習慣や食への意識の定着を図る。	A	A
学校関係者 評価委員に よる意見	・体を動かすことが好き、嫌じゃないことが子どもたちから伝わります。より「遊びながら」体を動かし、気持ちのもやもやも解消するような放課後や休日の過ごし方も大切かもと感じました。体育や健康への学びを家庭や地域でどう応用するかが、この項目の学力アップにもつながるのかな、と思いました。				
五 安心・安全でひらかれた 学校づくりを旨指して	⑨子どもの笑顔を学校、家庭、地域で協力して支えられたか。	A	すぐーるや学校 HP での丁寧な情報発信を今後も心掛け、ひらかれた学校づくりを大切にします。また、CS（コミュニティスクール）を中心として、地域や幼保小中の連携も密にしていくことで、地域の教育環境を生かした教育活動を推進できるよう努める。	A	A
学校関係者 評価委員に よる意見	・ハッピースマイル運動や交通安全総ぐるみ運動など地域と協力していることは良いと思います。 ・雪や雨による休校はすぐーるの他、学校 HP に掲載してもらえると、状況が分かり助かります。（よければご一考ください。） ・地域とつながろうとしている姿勢を教員の皆さんや学校の授業から感じます。				
六 その他 学校課題	⑩子どもが読書に親しんでいたか。	A	図書館利用の機会を計画的に設け、学級・学年・全校で連携して読書を推進する。紹介や読み聞かせを通して多様なジャンルに触れさせ、ブックトラック等で本に手が届く環境を整え、読書が定着していない児童へのアプローチも積極的に行っていく。	B	A
	⑪子どもは、時間を意識して生活できたか。	A	日課を意識した学校生活を送るために、日直による声掛けやより時計を確認する習慣をつけさせることで、教師の指示に頼らず子ども自身が時間を意識して行動できるようにする。また、教職員自身も日課を厳守する姿勢を高め、授業時間や下校時間等がルーズにならないようにする。	B	A
	⑫子どもは、SNS やゲームなどの約束やきまりを守って使うことができていたか。	B	各教科や道徳と関連付けて情報モラルを計画的に位置付け、学年ごとの指導内容を整理する。あわせて、具体的な事例を用いた指導や家庭との連携を強化し、継続的に実践力を高めていく。	B	A
学校関係者 評価委員に よる意見	・家庭生活とのつながりが深く学校でも苦慮されることだろうと感じました。学校の取組も参考に地域の子どもや大人にも働き掛け、考える場をもちたいなと感じました。				

